



全日本インカレ(団体戦)

～Day1～

九州大学ヨットの集大成といえる全日本インカレのレース1日目は、8knotという安定した風の中で行われました。天候にも恵まれ、2レースを消化しました。レース初日ということもあり何人かのレギュラーメンバーは緊張しているようでしたが、サポートメンバーが背中をたたくなどして鼓舞する場面も見られました。レース結果は思わしくなかったようですが、いつもの小戸での雰囲気大切に、すぐに気持ちを切り替えることができたのではないのでしょうか。(川野)

～Day2～

朝は快晴で8～9knotの風が吹いており、気持ちを一つに出艇しました。しかし風が不安定で、470級ではスタートしたものの途中でN旗があがりノーレースになるなど、もどかしい状況が続きました。最終的にはAPA旗があがりこの日のレースは終了しました。レース数をこなしたい九大ヨット部にとっては苦しい展開となりましたが、気持ちを切り替えて次の日のレースに備えました。(川端)

～Day3～

大会3日目は昼過ぎに出艇したものの風が安定せず、第3レースの途中でN旗が上がり第3レースも不成立となりました。この日の全体ミーティングでは永野

前主将の発したアツい言葉が皆の心に響き、これまでにないほどの一体感が生まれた瞬間でした。また平成31年卒の先輩方からしらか(レスキュー艇)のオーニングを寄贈していただきました。これから大切に使用させていただきます。誠にありがとうございました。(濱田)

～Day4～

全日本インカレ最終日。

この日は朝からいい風が入っていました。予定されたレースは最大2レース。この少ないレースの中で、いかに3艇が上位に食い込め

るかが最終結果に大きく影響したのではないかと思います。

インカレ独特の緊張感の中、誰もが勝つことだけを考えていました。九大ヨット部の思いはその時1つになっていたと思います。

最終成績はスナイプ級4位、470級12位、総合8位。

越えるべき壁は高かったというのも事実であり、私たちはそれを受け止めなければなりません。

来年の全日本インカレは同じ西宮です。リベンジを果たすその日まで、この悔しさを決して忘れることなく、私たちは前に進んでいきます。(寺井)

全日本 470 選手権大会

11月20日(水)~24日(日)に江の島ヨットハーバーにて全日本470級選手権大会が行われました。九州大学からはR2年度卒業予定の先輩方も含め計4艇、そして新3年の佐藤は早稲田大学の田中美紗樹選手とともにレースに出場しました。悪天候によりノーレースとなる日もありましたが、silverフリートでは7レース、goldフリートでは8レースを消化しました。この大会は全国上位の選手が集う中でレース経験ができる他、レベルの高い選手に質問するなど情報を得る上でも絶好の大会となりました。出場した選手はこの大会で得た貴重な経験を部に還元すべく、毎日奮闘したようです。(川端)

今津艇庫開所式

11月16日(土)に、今津艇庫にて開所式が行われました。先輩方および学校関係者の皆様、福岡市セーリング連盟の皆様には式にご出席いただいた他、内覧会において艇庫の様子をご覧いただきました。多大なるご支援を賜りました皆様には厚く御礼申し上げます。

今月よりミーティングを行うなどの試用期間を経て実際の活用方法などを考えていきたいと思っております。更なる練習効率の向上や密度の濃いミーティングを行い、日本一への大きな歯車となるように活用していきたいです。(川端)

新体制始動！スローガンは…「ひとつに」

各部署での今年の意気込みを書いてもらいました！各部署長の新鮮な意気込みをどうぞご覧ください！

《主将：芝洋斗》



今年のチームスローガンは「ひとつに」です。チーム一丸となって戦うために主将である自分が部員ひとりひとりと向き合って個性を引き出していきます。

僕は大学からヨットを始めたので決して選手として余裕があるわけではなく、470リーダーとの兼任もあり正直不安だらけですが、頼りがいのある同期や後輩の力を一杯借りて、みんなでいいチームをつくっていきたいと思います。最後に「ひとつに」になって喜び合おう！

《副将：高橋英悟》

副将を務めるに当たって抱負を述べさせていただきます。意識したいことは、「自分にベクトルを向ける」



ということです。チームに起こる全てのことを自分のせいだと思い、どう自分が働きかけたらその人が、チームが変わるのかを考えて行動したいと思います。また、「安全」には十分に注意して活動を行いたいと思います。「安全」の上にヨット部の活動が成り立っていることを忘れずに1年間活動して行きます。

《レース技術部：位田雅治》



日本一になるためには何が必要ですか？チーム力やサポート体制も大事ですが、それを活かせる選手のヨットスキルの高さが必要なのは言わずもがな

です。そのスキルを高めるため日々の練習を考える部署がレース技術部です。私はこのような部署の長を任せてもらえました。「ひとつに」という言葉のもと、全員を信じて九大ヨット部のスキルアップを図っていきます。

《学連部：成瀬諒花》

協会登録・計測・大会準備などの学連の仕事はミスがあれば大会の開催・参加することができなくなってしまいます。しっかり責任感をもち、この1年間滞りなく進められるよう頑張ります！また学連委員長として、九州大学内だけでなく九州水域全体に影響が出るという自覚をもって務めて参りますので、1年間よろしくお願い致します！



《主務部：川野由美子》

主務部は学校を主に、部外の方々達と連絡を取ります。また、数ある行事の指揮を執るのも私達主務部の仕事です。活動は他の部署と比べて何をしているか伝わりづらいものがほとんどですが、主務部がなければ日々の活動ができないのは確かです。多くの方々が携わってくださっているこの九大ヨット部の伝統を守り、部の窓口として恥じぬよう、1年間真摯に取り組んでいきます。



《広報部：寺井涼香》

広報部の大きな役割は日々、九大ヨット部の情報を発信し続けることです。「日本一」を目指すチームだからこそ、「日本一」応援されるチームでありたいと思っています。今年は新しい活動にもチャレンジし、もっと九大ヨット部のファンを増やし、チームの勢いをつけていきたいです。日頃から支えてくださる全ての方々に感謝の気持ちを忘れず、広報班全員でさらにより良い広報活動を追求していきます。



《遠征計画部：藤井美来》

遠征費を安くおさえ、安全面に注意し、規律を持った遠征にすることはもちろんのこと、マネージャー1人1人が遠征中やりがいを持って活動でき、それによって選手がより大会に集中できるような環境にできるようにこの一年がんばります！



《会計部：末永の花》

ヨットは道具を使うスポーツです。ディングー、マスト、レスキューなど挙げればきりがありません。さらにはトラックを使って船を輸送したり、大会に出るためには参加費がかかったり。このようにヨット部として活動するためにはたくさんのお金がかかるというのが現実です。そのためヨット部の年間予算は小規模な会社と同じくらい大きなものとなり、これを管理するのが会計部です。部費を始め、遠征費や食費の管理も行っています。しかし、"お金を徴収して、振り込んで、帳簿をつける"これだけが仕事ではありません。部員の個人負



担を減らせる方法を模索したり、学校へ支援をお願いしたりと多岐に渡ります。部員のみんなには、帆友会の先輩方、学校関係者の方々、保護者の皆様、そして九州大学ヨット部を応援してくださる全ての方からのお力があって部運営を行えていることを理解して部費を有意義に使ってほしいと思います。

《練習安全部：池田麻友》

九州大学ヨット部が活動する上で一番大切なことは「安全」です。安全に練習していく上でレスキュー艇は必要不可欠です。練習安全部では、そのレスキュー艇の管理や備品管理を行なっています。また、安全に関する資料の作成や知識の共有を行なっています。レスキュー艇に関する知識を蓄積し、徹底的な管理に努めていきます。



《選手管理部：西真優子》

私は一人一人をしっかりと見て、話を聞いて、その人その人で違ったサポートが出来るように工夫していけたらと思っています。選手からの要望があればもちろん応えますが、それ以外にも、部署で話し合い、今この選手に必要なものは何か、何をしたら伸び伸びとヨットに集中できるか、を常に考えて、選手の事を一番知っている選手管理部チームになりたいと思います。そしてそれをマネチームに還元し、マネ全員で共有できるようにしていこうと思います。



《人事部：井手沙織里》

個人的に人事部は、どの部署より九大ヨット部という組織と向き合う必要があると思っています。組織として、自分たちがどうすればより強く、より成長できるのか、部員と全力で向き合いながら、その答えを探し続けて行こうと思います。3年という学年に甘んじることなく、いいと思ったことは何でもやってみる精神で1年間頑張ります。



この1年間、ご声援くださったすべての皆様に心から感謝申し上げます。我々九大ヨット部は、部員全員が「ひとつに」なり試行錯誤しながらも常に邁進して参ります。ご迷惑をお掛けするかと思いますが、今後とも九州大学ヨット部を温かく見守っていただけたら幸いです。